

平成29年度 英語が好きになる学校づくり 取組報告書

事務所名	県北教育事務所	学校名	九戸村立九戸中学校	TEL	0195-43-2121
------	---------	-----	-----------	-----	--------------

生徒の主体的な英語学習を促すための授業改善

【ねらい】

- (1) 生徒の主体的な英語学習を促すための授業改善を行う。
- (2) 小・中・高で連携した英語教育を行う。

【具体的な取組】

(1) 授業改善

① 目的

生徒にとって主体的に取り組める言語活動を目指す。

② 取組

ア 指導主事の助言を受け、授業改善を行う。

イ 授業公開研究会を行うとともに、英語科でミニ授業研も行う。

○日時：平成29年9月15日（金）

○対象学級：2年A組

○授業者：T1 教諭 加藤 敬士

T2 講師 下田 直美

ALT グレアム・マッケンジー

○参会者：県北地区中学校 英語科教員 25名

県北地区小・中学校長 2名

県立伊保内高等学校 英語科教員 1名

県北教育事務所 指導主事 4名

○題材名：Program6「A Work Experience Program」

※ 英語科によるミニ授業研は随時開催。



ペアで即興で伝え合う様子



教師との対話

(2) 小・中・高等学校の連携

① 目的

異校種の教員による乗り入れ指導や授業参観により、児童生徒の英語科の学習への見通しや意欲をもたせるとともに、校種を越えた指導の在り方についての共通理解を図る。

② 取組

ア 中・高連携教育連絡協議会での伊保内高校教員による乗り入れ指導及び協議（平成29年11月22日）

イ 九戸村ナインズ・プラン（6年外国語活動合同学習）における乗り入れ指導（平成29年11月27日）

ウ 九戸村小中関連研修会に参加（平成29年12月1日）

○伊保内小6学年外国語活動の授業参観、協議（小学校6学年担任5名、中学校英語科1名、指導主事）



小学校教員とのTT



6学年 外国語活動で乗り入れ指導

(3) 校内放送の活用

① 目的

英語の歌を昼の放送で聞くことにより、英語をより身近なものとし、歌を通して既習事項に触れさせる。

② 放送内容

ア How old are you? イ What time is it? ウ Where are you going? エ What are you doing? など

(4) 校内掲示の活用

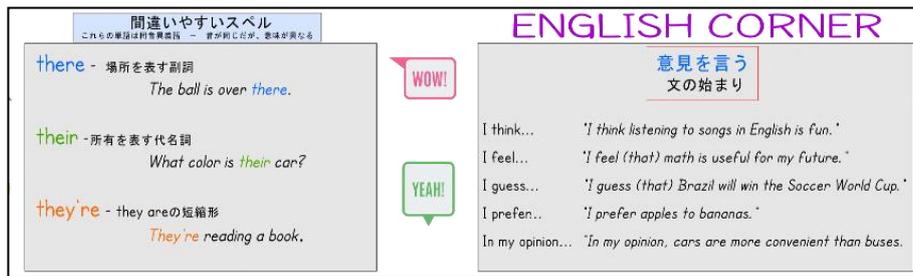
① 目的

生徒が授業で活用できる表現を掲示することで、日常的に触れさせる。

② 掲示内容

前置詞や文法について、ALT が作成した掲示物を掲示

【活用した掲示物（一部）】



(5) ALT 掲示板

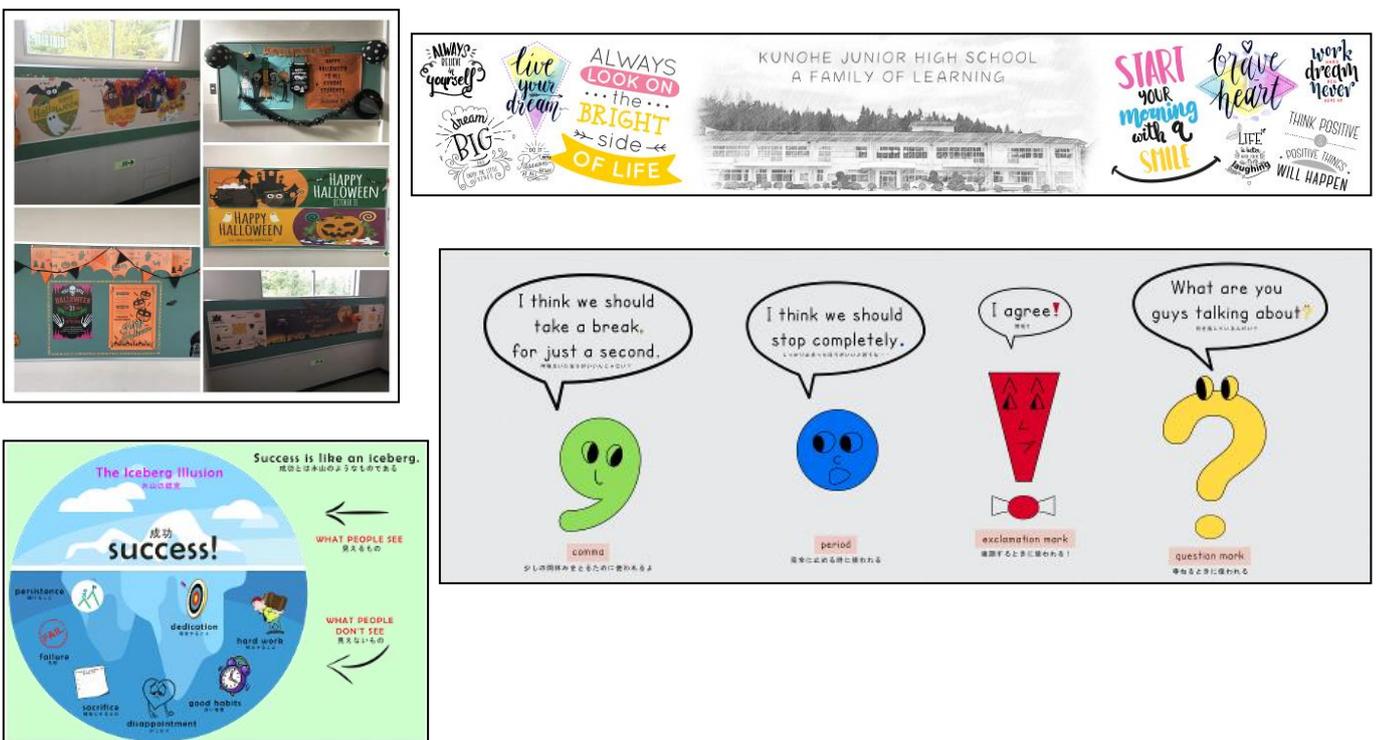
① 目的

ALT 自作の掲示コーナーを設けることで、生徒の異文化に対する興味・関心を高める。

② 掲示内容

ハロウィーンやクリスマスなど、季節のイベント等に合わせたポスターの掲示や装飾。

【活用したポスター（一部）】



(6) 取組の経過

日程	研修名 (研修場所)	成果と課題等
5/23 (火)	指導主事訪問 授業参観と指導助言 (九戸中学校)	成果：・英語での課題提示、教師・生徒の interactive な英会話 ・ペアワーク (縦・横・斜め) での Try & Error が効果的 (生徒の間違いをその場ですぐ確認をすること) 課題：・板書計画 (板書は生徒の思考の流れ) *メモにしないこと ・辞書の使い方 (パズル形式で) *基本的に生徒の頭で考えた英作文を優先
6/12 (月)	小中学校合同研修会参加 (総合教育センター)	成果：・次期学習指導要領を見据えた授業づくり (学びの深まりを目指して)
8/10 (木)	指導案検討会 (軽米町教育委員会)	成果：・次期学習指導要領を見据えた即興でのコミュニケーション 力を育成するための授業について助言を頂き、方向性が定まったこと
9/1 (金)	指導主事訪問 授業参観と指導助言 (九戸中学校)	成果：・具体的な課題提示 (生徒の課題意識、目的意識の醸成) ・eye-contact を意識したコミュニケーション 課題：・活動を終えた生徒(上位の生徒)への追加の活動
9/13 (水)	指導主事訪問 授業参観と指導助言 (九戸中学校)	成果：・即興対話に取り組む意欲の向上 ・ペアワークの前の効果的なセルフトーク (即興に向けて自信が深まったこと) 課題：・授業内の活動に対する時間配分
9/15 (金)	「英語が好きになる学校 づくり事業」授業公開研究会 (九戸中学校)	成果：・ゴールを意識した主体的な学習の展開 ・即興対話を通した相手を更に知りたいという意欲の高まり 課題：・対話全体の文法の正確性を上げること
11/15 (水)	ナインズ・プラン① (伊保内小学校)	成果：・小学校における外国語活動の授業に参加することで、教科 の英語との相違点や指導上の留意点についての理解が深ま ったこと
11/20 (月)	ナインズ・プラン② (伊保内小学校)	成果：・効果的な ALT の活用の在り方について、小学校の授業から 学ぶことができたこと
11/22 (水)	中・高連携教育連絡協議会 高校教諭による乗入授業 (九戸中学校)	成果：・校種毎の授業の進め方と一貫して目指すべき姿を共有でき たこと
11/27 (月)	ナインズ・プラン③ (伊保内小学校)	成果：・英語を使用し、中学校における英語科の授業の雰囲気を感じ させ、意欲化を図ったこと ・ゲーム活動を通した既習事項に触れる展開の工夫
12/1 (金)	小・中関連研修会 (伊保内小学校)	成果：・小・中での指導一貫性について考えることができたこと ・小学校段階において身に付けておくべき力を確認できたこ と

【成果】

(1) 授業改善について

- ① 学習した内容を活用させるための言語活動（ペア・グループ）でゴールを意識させながら取り組ませることで、生徒の意欲が向上し、充実した言語活動が実践できた。
- ② 即興を取り入れた英語表現の指導を検討し、生徒が積極的に会話しようとする授業をつくることができた。即興での対話に取り組む際には、直前に頭の中で自分と相手の会話を想像する self-talk が有効だった。
- ③ 対話をする際には、相手意識をもち、相手に関連した質問をすることで、聞き手の生徒も主体的に活動することができるようになった。
- ④ 英語科の授業において少人数指導が出来る環境を活かし、教師と生徒一人一人の口頭練習を増やした。また、生徒同士の会話の回数・量ともに大幅に増やすことができた。
- ⑤ ICTの活用により、視覚的に生徒にとって見やすく、英語に集中できる授業環境づくりが図られた。
- ⑥ 教師の発話を英語にし（75%以上）、継続して取り組むことで、生徒は指示内容を英語で理解できるようになってきた。

(2) 小中高の連携

- ① 校種を越えた乗り入れ指導や互見授業を通して、校種による指導法や、育てたい子どもの姿を共通理解図ることができた。また、一貫して大切にしていけるべき点についても確認することができた。
- ② 日常的に授業を見合い、高め合おうとする機運を高めることができた。

(3) 環境づくりについて

- ① 校内放送を活用し、昼食時間に英語の歌に触れさせることで、生徒の間で英語を話題にすることが増えた。また、英語の歌の種類を増やしたことにより、表現の幅に広がりが見られた。
- ② 校内掲示を活用し、普段生徒の身近にあるものに英語で触れさせることによって、興味・関心が高まり、それが知識の獲得へとつながった。また、授業でも連動して活用することにより、定着を図ることができた。

(4) 県学習定着調査（2年生）生徒質問紙から読み取れるデータ

- ① 「英語の勉強は好きですか」「英語の授業の内容はよくわかりますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合が県平均と比べ、多くなっている。
 - ア 「英語の勉強は好きですか」

九戸中学校	73%	県	60%	(県比 +13%)
-------	-----	---	-----	-----------
 - イ 「英語の授業の内容はよくわかりますか」

九戸中学校	85%	県	67%	(県比 +18%)
-------	-----	---	-----	-----------
- ② 英語表現の能力、書くことの領域の県平均正答率との差が、一昨年度、昨年度、今年度と徐々に向上してきている。
 - ア 「英語表現の能力」(県比)

一昨年度 (H27)	-13.3	昨年度 (H28)	-0.5	今年度 (H29)	+24.7
------------	-------	-----------	------	-----------	-------
 - イ 「書くことの領域」(県比)

一昨年度 (H27)	-10.5	昨年度 (H28)	+0.8	今年度 (H29)	+4.1
------------	-------	-----------	------	-----------	------